

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 パイプオルガン 400 回記念演奏事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,330 千円 (前年度予算額：4,700 千円)

＜財源 内訳＞ 区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,700	1,037	0	0	0	0	0	0	3,663
要求額	4,330	2,152	0	0	0	0	0	0	2,178
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

当館のパイプオルガンは、日本で初めて美術館に設置されたオルガンであり、昭和 58 年 3 月にサラマンカホールのパイプオルガンを設計・制作した辻宏氏により制作された。同年 8 月の第 1 回定期演奏会を開催、毎月第 2 日曜日に定期的に開催している。令和 3 年 1 月に 400 回を迎え、記念演奏を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、令和 3 年度に延期することとなった。

これまで節目となる 200 回、300 回では、海外（主にイタリア）から著名な演奏家を招聘した記念セレモニー及び演奏会等を開催しており、400 回についてもこれまでと同様に開催する。

(2) 事業内容

海外の著名な演奏家を招聘し、当館のパイプオルガンに関係の深い方等を招待した記念セレモニー及び演奏会を開催する。合わせて、演奏会の前に、子供向けのパイプオルガン体験会等を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
報償費	160	講師等謝金
旅 費	26	業務旅費
需用費	307	消耗品費、印刷製本費
役務費	10	通信運搬費
委託料	3,817	音楽プロモーターへの業務委託費
使用料及び賃借料	10	著作権使用料
合計	4,330	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○「清流の国ぎふ」創成総合戦略による位置づけ

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

(2) 後年度の財政負担

無

(3) 事業主体及びその妥当性

本館の「美とふれあい、美と会話し、美を楽しむ」のコンセプトにも合致していること、400回を迎える演奏会は日本初であり、広く当館をPRすることで来館者層の拡大にもつながることから、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/>	新規要求事業
<input type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 「美とふれあい、美と会話し、美を楽しむ」のコンセプトのもと、美術と音楽の調和により、県民にくつろぎのある空間を提供することで美術館により親しんでいただき、地域の文化芸術活動の振興に寄与する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移			現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
観客数	(H)	(H)	(H)	(H)	人 (H)	300人 (H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	より多くの方に美術館により親しんでいただくきっかけの一つとして行うべきものである。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	パイプオルガン演奏会は、毎回多くの方に来館いただいております、演奏会を目的に遠方から来館される方もいるなど広く認知されている。300回記念講演では、約700名の方に来館いただいております、来館者増につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	事業の実施に当たっては、少人数で効率的に企画・調整・運営を行うとともに、海外の相手方との役割・費用の分担や、業務の委託を適切に行い、必要な作業のみを行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>来聴者が固定している傾向がみられることから、より多くの方に参加いただけるような工夫が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>より多くの施設等に演奏会のチラシを配置してもらい、演奏会の周知を図ることで、演奏会の観覧者増はもちろん本館への来館者増加につなげていくことを目指す。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	